

広めましょう、介護予防の輪！ 第2回さんさん介護予防パートナー養成講座修了式

さんさん介護予防パートナー養成講座修了式を1月26日、福祉支援センターで行い、12人のパートナーが誕生しました。

介護予防パートナーとは、介護予防の知識・技術を習得し身近な地域で介護予防活動に取り組みボランティアの事です。修了生は「専門的な知識を学べて自分のためにもなった。頑張つて活動していきたい」と話していました。今後、修了生は町の介護予防教室などで活動します。



▲修了式を終え決意を新たにするパートナーの皆さん

認知症サポーターの輪が広がります 認知症サポーター養成講座

認知症サポーター養成講座を2月2日、菊陽中学校で行い、175人のサポーターが誕生しました。生徒は「近所に困っている人がいたら助けてい」「認知症やサポーターについて学び、私にも活動できそうだな」と話していました。

町は、認知症の人やその家族を地域で支える取り組みとして、認知症サポーター養成講座と講師役となるキャラバン・メイト養成研修を開催しています。



▲先生の迫真の演技に生徒も真剣

男女共同参画を創作落語や歌、寸劇で学ぶ よかつれフェスタ2016

よかつれフェスタ2016を1月30日、図書館ホールで行いました。さんさんの会の団体メンバーの菊陽町少林寺拳法協会による迫力ある演舞で開幕。働く婦人の家講座生39人が息のあったリズムダンスを披露し、来場者を楽しませました。

熊本地方務局阿蘇大津人権擁護委員協議会男女共同参画部会がパワーハラスメントやマタニティハラスメント、家族の在り方について寸劇を行いました。「女性が外で働くことが当たり前になっている今、家庭や職場みんなで支え合い、喜びを

分かち合える世の中になって欲しい」と訴えました。また、男性が育児や家事を行う様子を写した「イクメン・カジダンフォトコンテスト」の表彰式も行いました。黒田美樹さんの写真「ご機嫌な日曜日」がグランプリとして表彰されました。

最後に鶴ヶ島市役所職員で、男女共同参画の推進活動をしている千金亭値千金さんは性同一性障害や同性愛者ら性的少数派をテーマに創作落語を披露しました。来場者は「テーマは難しいが、落語だったので分かりやすかった」と話しました。



1 人権擁護委員による寸劇 2 千金亭値千金さんの落語 3 「イクメン・カジダンフォトコンテスト」でグランプリを獲った黒田美樹さんとその家族

地域で私たちにできること 第6回認知症をもっと知ろう！in菊陽

第6回認知症をもっと知ろう！in菊陽を1月23日、菊陽町図書館ホールで開催しました。約170人が参加。町は認知症の啓発に力を入れており、認知症に関する講演会を6年前から毎年開催しています。

今回は社会医療法人ましき会益城病院理事長の犬飼邦明先生が「認知症高齢者を守る」私たちにできること」をテーマに講演しました。犬飼先生は身近なニュースや実例を交えて、「認知症を正しく理解することや認知症の人を孤立させずみんなで見守っていくことが重要。認知症



▲優しい語り口で認知症の実例を話す犬飼邦明先生



▲町内外から多くの参加者が訪れました

の初期の段階で、本人に今後運転が難しくなると話しておくことや同乗して運転チェックを行うこと、主治医や警察との連携も必要です」と話しました。

来場者からは「他人の事と思ってはいたが、今日の話を聞いて他人事ではないと思った」「実例を挙げた講演で分かりやすく、認知症の人への接し方は勉強になった。地域での見守りの必要性を感じた」「認知症高齢者の運転免許証の所持は対応が難しいと思っていたので、参考になった」などの感想が寄せられました。

菊池地域の医療介護連携が実現 在宅医療と地域包括ケアシステム推進に関する協定

菊陽町、菊池市、合志市、大津町は菊池郡市医師会・歯科医師会・薬剤師会、県介護支援専門員協会菊池支部、県訪問看護ステーション連絡協議会菊池・阿蘇ブロックと1月31日、菊池市文化会館で県北広域本部立ち会いのもと、在宅医療と地域包括ケアシステム推進に関する協定を締結しました。

本協定は、地域包括ケアシステムの一翼を担う在宅医療を中核に、各関係機関との連絡調整をさらに深め、菊池地域の立地を踏まえた地域包括ケアシステムの確立に向け、協働の



1 協定締結関係者と後藤三雄町長ら菊池郡市4市町の町長 2 協定のあいさつをする菊池郡市医師会の岩倉雄一郎会長 3 協定書に署名する後藤三雄町長

推進を目的としています。

菊池広域連合長の荒木義行合志市長は「住み慣れた地域に住み続けることは多くの人の願いであり、自治体や関係機関が連携することで安全と安心を提供したい」とあいさつ。菊池郡市医師会の宮本浩光理事は「医師会だけでなく医療や介護に携わる多職種が足並みをそろえ、一致団結していくことが大事」と話しました。

今後、菊池郡市4市町は医療や介護に携わる関係機関と連携を強化し、安心して暮らせる地域を目指します。

町の将来像の実現に向けて 総合計画策定審議会第2回会議を開催

総合計画策定審議会第2回会議を1月29日、菊陽町役場で開催しました。今回は前回の会議と1月に開催した住民懇談会の結果を踏まえて修正した後期基本計画の素案について審議。委員は自身の知見や経験に基づいたさまざまな意見を出し合い、町の目指す将来像の実現に向けて活発に話し合いました。



▲あいさつをする明石照久会長

生き残るための企業の変革

菊陽町企業・事業者交流促進研修会

菊陽町企業・事業者交流促進研修会を1月20日、ブランヴェールアベニュー熊本で開催しました。横浜マリノス(株)の嘉悦朗前代表取締役社長が「組織の潜在能力を引き出す変革のマネジメント」日産のV字回復に見る組織風土改革」と題し講演。元日産自動車(株)執行役員嘉悦さんは「トップが旗を振らなければ改革はできない」と経営危機の日産が復活に至った過程を語り、参加者は真剣に聞き入っていました。



▲「改革し続けなければ成長は止まる」と語る嘉悦朗さん

町の発展に大きく貢献 菊陽町名誉町民 故富永清次氏 町葬

1月7日に87歳で亡くなった前町長で名誉町民の富永清次氏の町葬を2月7日、菊陽町図書館ホールで行いました。

町内外から約500人が参列。町葬では、映像による追想や参列者全員での黙とうが行われました。後藤三雄町長は「町民福祉の向上や産業基盤の整備など町の発展に力を注がれました。富永町長が目指されたまちづくりに町民の皆さんと共に全力で取り組みます」と故人の数々の功績をたたえて告別の言葉を述べました。その後、坂本哲志衆議院議員を



はじめ、参列者の中から5人が弔辞を捧げました。参列者は花を一本ずつ遺影に捧げ、在りし日の故人をしのびながら冥福を祈りました。故富永清次氏は昭和3年菊池郡津田村(現在の菊陽町大字津久礼)生まれ。菊陽町議会議員を経て、昭和53年10月に菊陽町長に就任しました。以来7期連続28年間にわたり、町長として、本町の発展に大きく貢献しました。平成19年11月に旭日小綬章を受章し、町は平成23年4月には菊陽町名誉町民の称号を贈っています。



1 菊陽町名誉町民の故富永清次氏へ告別の言葉を述べる後藤町長
2 故人をしのんで献花をする参列者
3 遺族代表であいさつする長男の連さん

美しい杉並木の景観を残そう 記念植樹祭

豊後街道の杉並木を次世代に引き継ぐため、県は2月10日に県道熊本菊陽線で植樹祭を開催しました。植樹祭では、もみじ園の園児が屋久杉の遺伝子を持つ杉苗を植樹しました。また、長年杉並木の保存活動をされてきた菊陽杉並木保存会の高木廣次会長に県から感謝状が贈られました。県は「みどりの創造プロジェクト事業」で枯れ枝、下枝のせん定や防草対策など、杉並木の景観を向上させるための整備を実施しています。



▲杉の苗を植樹するもみじ園の園児たち

地域で自分らしく暮らすために 介護予防・日常生活支援総合事業 合同説明会

介護保険制度の改正に伴い、菊池郡市4市町は、要支援者に対する訪問介護・通所介護を介護予防・日常生活支援総合事業へ4月から移行します。4市町は同事業の合同説明会を2月10日、合志市総合センターヴィーブルで各事業所を対象に開催しました。今後町は、高齢者の社会参加・介護予防をより促進するため、ボランティアを養成し、一人一人のニーズに合ったサービスを提供していきます。



▲町のサービスを説明する地域包括支援センター職員

食を食べることの大切さを考えよう 菊陽町健康フェア

菊陽町健康フェアを2月13日、菊陽町図書館ホールで開催し、約120人が参加しました。

第1部は、来場者が歯科検診・筋肉トレーニング体験、フィジオンによる筋肉量の測定、血糖値、骨密度、血管年齢などを測定。尚綱大学、尚綱大学短期大学部による食に関する展示も実施し、「おいしくてかむ回数が増えるレシピももらえたので、早速家で作りたい」という声が聞かれました。

第2部は、尚綱大学短期大学部食物栄養学科准教授の小野要先生が食



1 健康を保つために必要な栄養素の働きや種類を説明する小野要先生
2 講演会の参加者から質疑が活発に行われた
3 展示コーナーでよくかんで食べることの大切さを伝える尚綱大学短期大学部の学生

べることの大切さについて、体験談を交えて講演。「魚中心の食生活は太りにくく、認知症予防やうつ病予防、アンチエイジングに効果があります。魚を使った食事を増やし、食べる量やバランスを考えましょう。楽しく食えることも大事」などと話しました。参加者は「あらためて食の大切さに気付いた」「バランスのいい食事を心掛けたい」と話していました。

町は、今後も健康イベントを通し、皆さんの健康づくりのサポートをしていきます。



子どもたちを応援したい

菊陽町地域婦人会が中部小学校にバザー収益寄贈

菊陽町地域婦人会(岩根裕美子会長)は1月25日、すぎなみフェスタ2015のバザーで得た収益の一部5万円を菊陽中部小学校に寄贈しました。

中部小学校の中林義徳校長は「ありがとうございます。子どもたちのために大事に使います」とお礼の言葉を話しました。婦人会の副会長・酒井恵さん、守田恵美さん、大竹美鈴さんは「来年度以降も次世代を担う町内の小中学校の子どもたちを応援していきたいです」と話していました。



▲収益金を寄贈する3副会長と中林義徳校長、松本成樹教頭

ありがとう もみじ園

もみじ園「園舎お別れ会」

町立保育所もみじ園の園舎お別れ会が1月23日、同園で開催されました。このイベントは保護者が提案したもので、解体される園舎へメッセージを贈る企画です。大寒波の中、在園児や保護者、卒園児の約100人が集合。参加者は思い出深い教室の窓ガラスや床一面に「5年間ありがとう」「こんなに大きくなったよ」「もみじ園のこと忘れない」などの感謝を含めたメッセージや温かな似顔絵、イラストを色とりどりに描きました。



▲窓ガラスや床にメッセージや絵を描く園児と保護者

史跡が語る文化や絆、知恵

南方地区の民話風郷土史「むかしのみなみがた」

南方ハイパワークラブが1月14日、南方にある史跡や史跡にまつわる暮らしなどをまとめた郷土史「むかしのみなみがた」を作りました。「よるげに水あびりいこい」「地獄橋」「往還杉の菊陽太郎」など全14話。地区の高齢者に子どもころの体験や言い伝えを聞き、写真やイラストを添えて2年で完成させました。代表の紫藤英二さん・和代さん夫妻は「地域に残る協働の精神や文化、知恵、宝を残したいと作った。歴史を知り、地域に誇りを感じてほしい」と話しました。



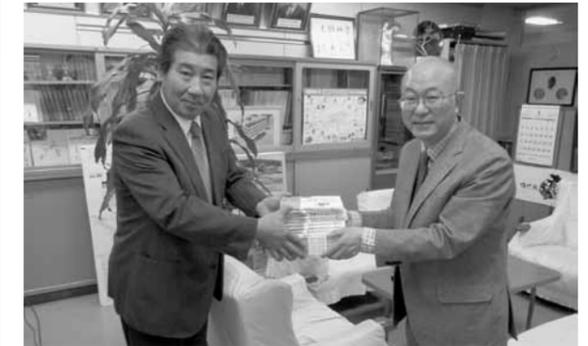
▲「次は第二集を作る」と意気込む南方ハイパワークラブ

感謝の気持ちを伝えたい

山口歯科医院が町内小中学校に本を寄贈

昨年12月に開業30周年を迎えた山口歯科医院(宮ノ上)の山口治利院長が1月6日、町内の全小中学校に本を寄贈しました。本は全部で10種類の計118冊。本は各学校の図書館に置かれ、今後子どもたちの学習に役立てられます。

山口院長は「これまで続けてこられたのは地域の皆さんの温かい支援のおかげです。地域へ感謝の気持ちを伝えたい。子どもたちに読んでほしい本を集めました」と笑顔で話していました。



▲「学習に役立ててほしい」と本を渡す山口治利院長(右)

地域の視点で考える青少年教育

菊陽町青少年健全育成町民会議 全体研修会

平成27年度町民会議全体研修会が2月6日、光の森町民センターで開催され、尚絅大学文化言語学部専任講師・稲葉浩一さんが「非行少年と社会のつながり」をテーマに講演しました。稲葉さんは女子刑務所内の映像を交えながら、非行・逸脱の理論や逸脱行為に対する周囲の対応の注意点を説明。更生保護女性会会長の村上緑さんは「大変貴重で分かりやすい講演だった。今日学んだことを各団体で共有して、これからの青少年育成の活動に役立てていきたい」と話しました。



▲「地域の見守りと声掛けが大事」と話す稲葉浩一さん

選挙制度の発展に尽力

総務大臣表彰・総務大臣感謝状

選挙関係功労者の表彰式が1月26日、県庁で行われました。町明るい選挙推進協議会委員の原田紀さん(井口)が大臣表彰を、町選挙管理委員長の石坂孝行さん(上津久礼)が大臣感謝状を受領しました。

原田さんは「婦人会、仕事、家庭との掛けもちで大変だったことが思い出です。表彰に感謝します」と笑顔に。石坂さんは「一緒に取り組んだ委員みんなでいただいたものです。18歳選挙権の導入をひかえ、若い人にもぜひ投票してほしいです」と話しました。



▲石坂孝行さん(左)と原田紀さん(中央)

お茶でインフルエンザ予防

J A 菊池茶部会菊陽支部「お茶の葉寄贈」

J A 菊池茶部会菊陽支部の福本勝さん、矢野章さん、上田茂政さん、鎌田博昭さん、森田哲生さんが1月20日、計50kgのお茶の葉を町内保育園と小中学校に寄贈しました。緑茶に含まれるカテキンという成分には、ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス作用や抗毒素作用があり、虫歯の予防にも有効です。

J A 菊池茶部会菊陽支部の皆さんは「インフルエンザなどの予防に役立ててもらいたい。楽しくうがいの習慣がついてくれたらうれしいです」と話しました。



▲お茶でうがいをする白鈴園の園児たち

地域のために

ソニーセミコンダクタ(株)が車いすを寄贈

ソニーセミコンダクタ(株)が1月19日、菊陽町に車いすを寄贈しました。同社は、平成15年から町社会福祉協議会などと協力して空き缶のプルタブを集める活動を行っており、これまでに24台の車いすを市町村や老人ホームへ寄贈。町内の施設への寄贈は今回が5台目で、光の森町民センターで使われる予定です。

同社の松本博史総務部長は「地域の皆さんに支えられて仕事をしています。これからも地域のために頑張りたい」と笑顔で話していました。



▲ソニーセミコンダクタ(株)の皆さんと車いす